

# News Letter

2021  
Summer issue

令和3年9月4日発行

*Japan Society of Physical Education, Health and Sport Sciences  
Division of Sociology of Physical Education and Sport*



## 日本体育・スポーツ・健康学会 体育社会学専門領域

事務局：〒002-8502

札幌市北区あいの里五条三丁目 1-5

北海道教育大学 札幌校

石澤 伸弘 研究室内

E-mail:

ishizawa.nobuhiro@s.hokkyodai.ac.jp

## < 目 次 >

代表あいさつ……………1

各種委員会委員について……………2

2021 年度専門領域総会のご案内……………2

日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会  
研究発表スケジュールについて……………3

研究委員会より……………5

事務局より……………6

## 転換期の専門領域

体育社会学専門領域代表 山口 泰雄

2021年6月1日から2023年5月31日まで、一般社団法人日本体育・スポーツ・健康学会 体育社会学専門領域代表に就任しました流通科学大学の山口です。就任に際し、357名の会員の皆様に、一言ご挨拶申し上げます。

専門領域前事務局から、2021～2022年度役員選挙結果を知らされたとき、正直驚きました。それは、日本体育学会体育社会学専門分科会会長（2010-2011年度）を務め、神戸大学を2018年に定年退職していたからです。Happy retirementした身でしたので、代表を受けるべきか迷いましたが、選挙で選出されたことを受け止め、お受けすることにしました。

これまで、『転換期』に生きてきました。高校は、“中等教育の多様化”の名のもとに設立された兵庫県立社高校体育科を卒業し、大学院博士課程は、体育教員養成課程のないWaterloo大学キネシオロジー（身体運動学）でPh.D.を取得しました。そして、国立単科大学として設立された鹿屋体育大学で6年間、学部大学院教育に携わりました。神戸大学では、大学設置基準の大綱化(1991)に関わり、教養部と教育学部を改組した発達科学部、また「保健体育科目」から「健康・スポーツ科学」への転換にも関係しました。日本体育学会兵庫支部は、「兵庫体育・スポーツ科学学会」（1991）の名の下の独立学会に改組されました。

日本体育学会は1950年に発足しましたが、2021年4月から日本体育・スポーツ・健康学会へ名称変更が行われました。3日間の学会大会の1・2日目は、5つの応用専門領域部門に分かれて、テーマに沿ったシンポジウムと一般発表が展開されます。これまで1・2日目に設定されていた専門領域の発表や企画（評議員会・総会等）は、3日目の最終日に設定されました。

このように体育社会学専門領域も『転換期』にありますが、専門領域前菊幸一代表のもと、「(一社)日本体育学会体育社会学専門領域における今後の在り方検討ワーキンググループ」（松尾哲矢座長）は2020年12月～2021年3月にかけて、コロナ禍においても真剣な議論を重ね、WG答申をまとめられました。第71回学会大会（筑波大学オンライン）の体育社会学専門領域総会（3日目）において、WG答申が報告され議論されます。東京2020オリパラが幕を閉じ、共生社会や健康長寿社会、デジタル・イノベーション社会の構築が社会課題である我が国の未来に対して、体育社会学研究がどのような知見を蓄積し、社会貢献が可能なのか、今、問われています。

## 各種委員会委員について

- 体育社会学専門領域 各委員会委員：任期 2021年6月1日から2023年5月31日  
(◎は委員長, ○は副委員長)

### <研究委員会>

◎松尾 哲矢, ○石坂 友司, 原 祐一, 工藤 保子, 稲葉 佳奈子, 山田 力也

### <編集委員会(年報・発表抄録集)>

◎山本 理人, ○松田 恵示, 松尾 哲矢, 前田 和司, 石澤 伸弘, 千葉 直樹, 稲葉 慎太郎,  
宮本 幸子, 渡 正, 高尾 将幸

### <学生研究奨励賞選考委員会>

◎前田 和司, ○前田 博子, 土肥 隆, 工藤 康宏, 大勝 志津穂

### <広報委員会>

◎藤井 雅人, ○伊藤 克広, 常行 泰子

### <専門領域賞選考委員会>

◎水上 博司, ○北村 尚浩, 川西 正志, 飯田 貴子, 清水 諭, 高橋 豪仁

### <監事>

岡安 功, 伊藤 央二

### <事務局>

事務局長：石澤 伸弘  
事務局次長：伊藤 克広  
広報：常行 泰子  
会計：高松 祥平

## 2021年度 専門領域総会のご案内

日本体育・スポーツ・健康学会 第71回の3日目に専門領域総会を下記の通り開催します。

1. 日時：2021年9月9日(木) 12時～13時
2. Zoom URL：<https://zoom.us/j/92659475135?pwd=YUpjK3h1SFk2Q2tQbJg0Z3oybEJnZz09>

ミーティング ID：926 5947 5135

パスコード：247281

※ 11時45分頃よりアクセス可能となります。

## 日本体育・スポーツ・健康学会 第71回大会 体育社会学専門領域 研究発表スケジュール

体育社会学専門領域の研究発表は、学会大会3日目の9月9日(木)に実施されます。

◆口頭発表①：2021年9月9日(木) 9:00～9:50 会場4 (Zoom)

座長：大勝 志津穂 (愛知東邦大学)

[02 社-口-01]

9:00～ 三上 純 (大阪大学大学院 人間科学研究科)

「運動部活動の効果研究」における性の二元化と多様性の不可視化に関する検討」

[02 社-口-02]

9:25～ 前田 博子<sup>1</sup>、三浦 柚記<sup>2</sup> (1. 鹿屋体育大学、2. 株式会社 ZEN PLACE)

「保健体育科教員養成における女性の健康課題への視点：全国国公立大学のシラバスを対象に」

◆口頭発表②：2021年9月9日(木) 11:00～11:50 会場4 (Zoom)

座長：山田 理恵 (鹿屋体育大学)

[02 社-口-03]

11:00～ 日高 裕介 (早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科)

「全国高等学校体育学科・コース連絡協議会及び全国高等学校長協会体育部会の歴史的変遷に関する研究」

[02 社-口-04]

11:25～ 中澤 篤史、星野 映 (早稲田大学)

「中学生・高校生年代の競技大会の展開：1946年から2001年まで」

◆口頭発表③：2021年9月9日(木) 13:00～14:15 会場4 (Zoom)

座長：松尾 哲矢 (立教大学)

[02 社-口-05]

13:00～ 蛭間 龍矢 (東京学芸大学大学院 教育学研究科)

「野外教育における概念的「遊び」に関する一考察」

[02 社-口-07]

13:50～ 河野 洋 (福山平成大学)

「アスリートに向けられるインターネット上のネガティブなコメントの実態」

◆口頭発表④：2021年9月9日(木) 14:25～15:15 会場4(Zoom)

座長：久保 和之（龍谷大学）

[02 社-口-08]

14:25～ 北村 尚浩、中村 勇、前阪 茂樹(鹿屋体育大学)

「海外柔道家の柔道参加動機と学習効果：オランダ・ベルギーの柔道家を対象として」

[02 社-口-09]

14:50～ 堀田 文郎<sup>1</sup>、松尾 哲矢<sup>2</sup>(1. 立教大学大学院 博士課程前期課程、2. 立教大学)

「ボディビル競技における「のめり込み」を惹き起こす要因とその過程に関する実証的研究」

◆口頭発表⑤：2021年9月9日(木) 15:25～16:15 会場4(Zoom)

座長：松田 恵示（東京学芸大学）

[02 社-口-10]

15:25～ 東原 文郎(京都先端科学大学)

「<体育会系>就職最盛期に関する仮説生成的研究：1990年代の大学新卒採用と企業スポーツの文脈に着目して」

[02 社-口-11]

15:50～ 高峰 修(明治大学)

「2013年以降の体育学・スポーツ科学分野における体罰・暴力問題に関する研究動向」

## 研究委員会より

### ■ 2021年度 体育社会学専門領域研究会の開催について

(1) テーマ：「体育社会学研究は何を問うてきたのか—その特徴、独自性について」(案)

(2) 開催日時：2021年12月12日(日)14時～16時30分 オンライン

(3) 登壇者

・松田恵示氏(東京学芸大学)  
「関連領域との差異からみた体育社会学の独自性」

・水上博司氏(日本大学)  
「経験知からみた体育社会学の独自性」

・北村尚浩氏(鹿屋体育大学)  
「研究動向からみた体育社会学の独自性」

(4) コメンテーター

・大勝志津穂氏(愛知東邦大学)

・稲葉佳奈子氏(成蹊大学)

(5) 司会

・原祐一(岡山大学)

・石坂友司(奈良女子大学)

### ■ 専門領域研究セミナーの開催について

➤研究および会員サービスの充実に資するため、2021年度には1回、2022年度には2回程度実施することとしたい。

(1) 名称：2021年度 第1回体育社会学専門領域研究セミナー

(2) 期日：2022年2月22日(火)19:00-21:00

(3) 登壇者：アンドレアス・ニーハウス氏(ベルギー・ゲント大学)

専門：体育史(嘉納治五郎、身体文化研究)

※近編著：『Challenging Olympic Narratives』

(4) タイトル：「2020東京オリンピック・パラリンピックを振り返って」

—開催の意味と課題—(仮題)

(日本語で実施) <https://www.olympicnarratives.ugent.be/program/>

司会：石坂友司(奈良女子大学)

## 事務局より

1. 会員動向：体育社会学専門領域の会員数は、2021年5月17日現在357名です。
2. 会員情報変更：日本体育・スポーツ・健康学会会員の名簿管理は学会本部が行っております。勤務先の移動、住所・所属などの変更があった場合は、すみやかに「会員情報変更届」(『体育学研究』に添付)を学会本部事務局にFAXまたは封書で送付してください。学会本部とともに専門領域事務局にもメールでご連絡いただくと助かります。
3. 会則および諸規定等の改訂版について：諸規定等の改訂版は、随時専門領域ホームページに掲載していますので、ご確認ください。

事務局メールアドレス ishizawa.nobuhiro@s.hokkyodai.ac.jp (石澤)  
itokatsu@em.u-hyogo.ac.jp (伊藤)

## あとがき

あとがき

今年度より2年間、伊藤克広会員、常行泰子会員とともに体育社会学専門領域の広報委員会を担当させていただくことになりました、福岡大学の藤井雅人と申します。日本体育・スポーツ・健康学会 第71回大会の開催直前となってしまいました。本専門領域のNews Letter 2021 Summer Issueをお届けいたします。

1年の延期を経て開催された東京オリパラも、明日のパラリンピック閉会式をもって幕を閉じることになります。閉塞感漂う社会情勢のなかで、多くの人々が、世界各国のアスリートの躍動する姿に元気づけられたのではないのでしょうか。他方で、開催直前までその是非に揺れた今回のオリパラほど、スポーツを取り巻く外部環境について一般大衆のレベルで話題とされたことはなかったように思われます。特にオリンピックについては、世界最高レベルのスポーツ競技会として、清く、美しく、尊いという側面にとどまらず、現状として経済や政治との決して好ましいとは言えないような関係性をも含みこんだ存在であることが、世間に知れわたったように思われます。今、こうした状況を危惧し、その改善を求める大衆からの声も増してきているなかで、まさに本専門領域が長年にわたり蓄積してきた研究知見の活用が大いに期待される所です。微力ではありますが、広報委員として、本専門領域からの研究知見や有益な情報のアウトプットに少しでも貢献できればと考えております。

まだまだ新型コロナウイルス感染拡大の収束が見通せないなか、各会員のみなさまにおかれましては、くれぐれもお身体ご自愛ください。

藤井 雅人 (広報委員会)